

## I 北村賞

我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を称えるため、日本公園緑地協会の中に「北村賞」が設けられています。

この表彰制度は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、その業績を記念する事業の一環として、昭和43年3月社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地分野の調査、研究、計画、設計等に著しい功績のあった方を表彰する制度です。

なお、この表彰は、昭和45年度から隔年ごとに実施してきましたが、昭和63年度からは毎年表彰を行っております。

### 第41回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

- ① <sup>あしざわ</sup> 芦澤 <sup>たくみ</sup> 拓実 （73歳）

元 一般社団法人日本公園緑地協会 理事兼公園緑地研究所副所長

#### 受賞理由

氏は、平成30年3月に一般社団法人日本公園緑地協会を退職するまでの46年間にわたり、公園緑地に関する多くの調査研究・計画・設計に携わってきた。とりわけ、国営公園をはじめとする大規模公園等の計画・設計にあたっては、卓越した技術と指導力に加え、多くの学識者・専門家の知見を反映させる実施体制を確立することで地域の歴史・文化や自然資源を最大限活かした公園づくりを数多く実践し、全国各地で公園づくりの規範としての役割を果たしている。また、公園行政や造園技術者のための「都市公園技術標準解説書」、「造園施工管理」、「ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり」などの専門図書の策定に尽力し、公園緑地行政や造園技術の発展に大きく貢献している。

② <sup>いがらし</sup> <sup>まさお</sup> 五十嵐 政郎 (62歳)

元 東京都建設局公園緑地部長

現 公益財団法人東京都公園協会常務理事

**受賞理由**

氏は、昭和56年に入都以来、公園緑地の計画策定から整備、管理運営に至るまで多方面で活躍された。特に、上野恩賜公園グランドデザインの取りまとめは、公園全体再整備に結果を出し、初めての自然回帰型集合墓地である樹林・樹木型墓地の計画・整備、丘陵地公園である大戸緑地の開園、第29回都市緑化フェア実行委員会事務局、小笠原の世界遺産登録に向けた関係機関会議の開催など、自然公園から都市公園、都市緑化の推進まで、幅広く、東京の緑行政の発展に寄与されたその功績は多大である。

③ <sup>きたがわ</sup> <sup>あきすけ</sup> 北川 明介 (67歳)

現 株式会社グラック 代表取締役

**受賞理由**

氏は、造園コンサルタントとして、公園緑地の調査・計画設計においてその手腕を発揮し、多くの賞を受賞している他、東京農業大学で20年以上にわたり非常勤講師を勤め、後進の育成に尽力している。また、ランドスケープコンサルタント協会(CLA)と公園緑地管理財団が共催して行った、地方自治体の公園関連職員に向けた「実務者講習会」の講師を勤めるなど、造園コンサル業の普及にも活躍している。さらに、CLAが創設した資格制度「登録ランドスケープアーキテクト(RLA)」の資格者団体である「ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)」立上げ時の理事を務め、職能の確立、認知に貢献した。

④ <sup>なかね</sup> <sup>しろう</sup>  
中根 史郎 (68歳)

現 株式会社中根庭園研究所 代表取締役所長

**受賞理由**

氏は、大学において専門外の分野に学びながら卒業後は父 金作氏に師事し、独学で資格を取得するなどたゆまぬ努力を重ね、今日に至るまで40年以上に亘り、国内外の公園緑地・都市景観に関する調査・計画・設計の他、伝統的<sup>な</sup>日本庭園の設計や、文化財の調査等を行っている。特に京都御所・大宮・仙洞御所・修学院離宮においては、管理技術者として樹木と石組の調査及びその保存修理設計の作業を行い、その調査結果に基づき修学院離宮作庭当時の植栽形態復元に関する提言を行った。

国内では専門家を対象とした研修会の講師を勤め、欧米や中国から招かれて講演する機会も多く、2012年の佐藤国際交流賞受賞によりその功績は高く評価されている。日本造園修景協会の評議員や日本庭園協会にて理事・評議員を歴任し各協会の業務執行に深く関与した他、ランドスケープコンサルタンツ協会においては国際委員として、国内外に協会の知名度向上とランドスケープアーキテクトの交流のため尽力した。

(年齢は平成31年3月31日現在)